

「あかぎ防災キャンプ」

1. 趣旨

次代を担う人材の防災意識と社会参画意識の向上を目指し、これからの防災・減災の担い手である児童生徒を中心とした防災キャンプを開催し、防災ジュニアリーダーを育成することを目的とする。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和6年1月27日(土)～1月28日(日)【1泊2日】

(2) 参加者

小学5・6年生、中学生、高校生(男子0名、女子4名)

3. 企画運営のポイント

- (1) 「あかぎ防災キャンプ」の目標を「防災・減災の担い手となる防災ジュニアリーダーの育成」に設定し、本事業での学びを学校や地域社会で活用できるようにする。
- (2) 群馬大学金井昌信教授に指導助言をいただき、昨年度までの防災キャンプで実施したプログラムを見直し、より効果的なプログラムを実施する。
- (3) 前橋市総務部防災危機管理課、前橋市消防局北消防署の協力のもと、児童生徒たちが意欲的に取り組む充実した体験活動を実施する。

4. 日程

	午前	午後	夜
1月27日 (土)		<ul style="list-style-type: none">・起震車体験 講師：前橋市総務部防災危機管理課・避難所設営についての講話 講師：群馬大学金井昌信教授・避難所設営体験 講師：群馬大学金井昌信教授・避難所体験	<ul style="list-style-type: none">・防災食体験・入浴できない際の対処方法体験
1月28日 (日)	<ul style="list-style-type: none">・風水害プログラム 講師：前橋市消防局北消防署 石原宏二白川分署長・非常持出品について・振り返り		

5. 主な活動内容



「起震車体験」



「避難所設営のための講話」



「避難所設営体験」



「防災食体験」



「風水害プログラム」



「非常持出品について」

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足4名(100%) やや満足0名(0%) やや不満0名(0%) 不満0名(0%)

(2) 参加者の声

- ・起震車だから怖くはなかったが、実際に地震が起きたら絶対に動けないと思った。
- ・避難所について知識を深めることができた。「防災対策って深いな。」と思った。家族と知識を共有したい。
- ・避難所設営体験では、電気がないから寒いし、避難所を設営するのが大変だとわかった。協力が大切だと感じた。
- ・防災食体験では、数がないと譲ったり分けたりしないといけないことがわかった。普段飲んでいる水のありがたさがわかった。
- ・家の防災グッズを見直したいと思った。「必要なものがたくさんあるな。」と思った。どうやって持っていくかなど、決めなくてはならないことがたくさんあることがわかった。

(3) 成果

- 参加者の感想から、防災ジュニアリーダーとしての知識や意識の高まりを感じることができた。
- 関係機関と連携することで、起震車体験や風水害プログラムなど充実した体験活動を提供することができた。
- 振り返りの時間が、個人の学びを学校や地域社会で活用するための動機づけの時間となっていた。

(4) 課題

- より多くの児童生徒に参加してもらうために、開催時期や期間、広報の仕方などを工夫する必要がある。

担当：杉山 直弥、竹内 正則、中谷 仁